CASBEE®北九州　評価結果

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル　■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要

建物名称	Asian Frontier7号棟増築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★

2 重点項目への取組み度

重点項目	得点※	/満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3	/5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.6	/5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.3	/5		がんばろう
4 高齢社会への対応	#####	/5		#VALUE!

※ 対応するCASBEEのスコア（平均）を5点満点で表示します。（スコア1.0＝1点、スコア5.0＝5点）

評価　凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル：CASBEE-建築（新築）　2014年版　使用CASBEE評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1 循環型社会への貢献　スコア平均　3.3

リサイクルに関する配慮

LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減　スコア 2.8

＜自由記述＞
乾式間仕切りな共用部と専用ルートを通る配線・配管等の計画により、廃棄物縮小に配慮している。

長寿命化に関する配慮

Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数　スコア 3

Q2/ 3 対応性・更新性　スコア 4.2

＜自由記述＞
高い階高や床荷重にゆとりのある計画としている。また今後の設備拡張スペースや更改スペースが十分に見込まれている。

2 地球温暖化対策の推進　スコア平均　3.6

省エネ・省資源に関する配慮

LR3/ 1 地球温暖化への配慮　スコア 3.2

＜自由記述＞
LCCO2は標準的な数値を目標としている。

節水に関する配慮

LR2/ 1.1 節水　スコア 4

＜自由記述＞
節水コマ、節水型便器を採用している

3 豊かな自然環境の確保　スコア平均　1.3

生態系保全に関する配慮

Q3/ 1 生物環境の保全と創出　スコア 1

＜自由記述＞
工場跡地の更地であり、現状に生物環境が殆どない。

緑化に関する配慮

Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上　スコア 1

LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善　スコア 2

＜自由記述＞
工業専用地域で一般の人が立ち入らない場所であり、最小限の整備としている。

4 高齢社会への対応　スコア平均　ー

バリアフリーに関する配慮

Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画　スコア

＜自由記述＞
通信建物のため対象外

主な指標

建物の外皮性能（BPI評価）		
非住宅：BPI値、住宅：省エネ等級	0.62	
建物の一次エネルギー消費量（BEI評価）		
非住宅：BEIm値、住宅：　ー	0.61	
外構緑化指数	0	%
建物緑化指数	0	%

：入力欄　：CASBEE－建築（新築）の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)　評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版　使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要

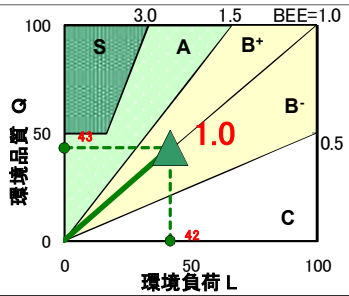
建物名称	Asian Frontier7号棟増築工事	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡東区大字前田	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月　予定	評価の実施日	2018年2月21日
敷地面積	49,054 ㎡	作成者	髙橋勉
建築面積	4,905 ㎡	確認日	2018年2月23日
延床面積	11,920 ㎡	確認者	佐藤章

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

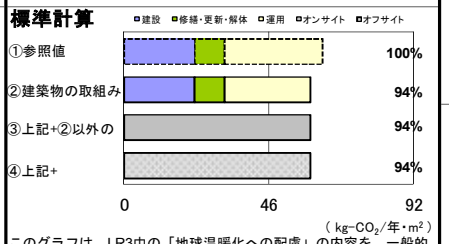
BEE =1.0 ★★★☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C: ★



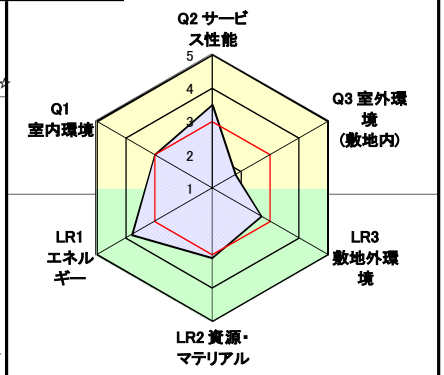
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆　60%: ☆☆☆☆　80%: ☆☆☆　100%: ☆☆　100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

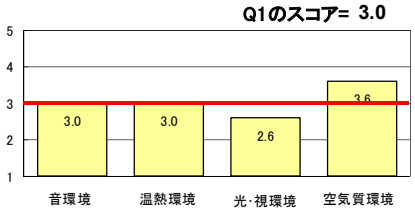
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



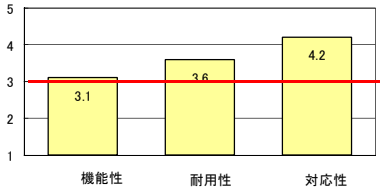
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.7

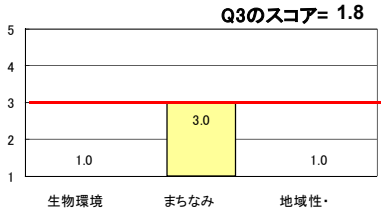
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.5

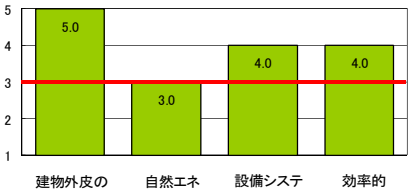


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 1.8

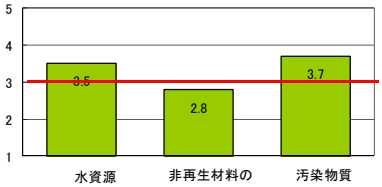


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.3

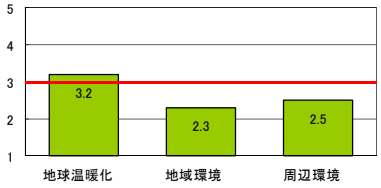
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 3.8



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.1



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=2.7



3 設計上の配慮事項

総合

通信建物としての信頼性を高めるとともに、一部の執務スペースにおける快適性に配慮した建物計画とした。

その他

無し

Q1 室内環境

・吸音性能に配慮した居室空間
・化学汚染物質の少ない内装材を全面的に採用。

Q2 サービス性能

・十分なリフレッシュスペースや階高を確保した計画
・制震構造の採用、ゆとりある床荷重の構造設計
・通信や電源に２ルート化、今後の構築や更改を見越したスペースなど、建物用途に適った信頼性や将来性を備えた計画

Q3 室外環境（敷地内）

・工業専用地域の工場跡地における最小限の整備。

LR1 エネルギー

・継続した改善に向けた様々なモニタリングを実施。

LR2 資源・マテリアル

・空調に工業用水を採用
・リサイクルに配慮した内装の計画
・地球環境にやさしい消火剤、断熱材の採用

LR3 敷地外環境

・省エネルギー空調（間接蒸発式空調機）の大々的な導入
・光害の少ない計画。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
Asian Frontier7号棟増築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル：　CASBEE-建築(新築)2014年版
■評価ソフト：　CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分 評価点	建物全体・共用部分 重み係数	住居・宿泊部分 評価点	住居・宿泊部分 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.7
Q1 室内環境			0.30		-	3.0
1 音環境		3.0	0.15		-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40		-	
1.2 遮音		2.6	0.40		-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60		-	
2 界壁遮音性能		2.0	0.40		-	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）			-		-	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）			-		-	
1.3 吸音	床（タイルカーペット）、天井（岩綿吸音板）の2面に採用	4.0	0.20		-	
2 温熱環境		3.0	0.35		-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50		-	
1 室温		3.0	0.38		-	
2 外皮性能		3.0	0.25		-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20		-	
2.3 空調方式		3.0	0.30		-	
3 光・視環境		2.6	0.25		-	2.6
3.1 昼光利用		1.8	0.30		-	
1 昼光率		1.0	0.60		-	
2 方位別開口			-		-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30		-	
1 昼光制御		3.0	1.00		-	
3.3 照度		3.0	0.15		-	
3.4 照明制御		3.0	0.25		-	
4 空気質環境		3.6	0.25		-	3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.63		-	
1 化学汚染物質	内装材は原則全てF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00		-	
2 アスベスト対策		-	-		-	
4.2 換気		3.0	0.38		-	
1 換気量		3.0	0.33		-	
2 自然換気性能		3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33		-	
4.3 運用管理		-	-		-	
1 CO_2の監視		-	-		-	
2 喫煙の制御		-	-		-	
Q2 サービス性能		–	0.30	-	-	3.5
1 機能性		3.1	0.40		-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40		-	
1 広さ・収納性		3.0	0.50		-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.50		-	
3 バリアフリー計画		-	-		-	
1.2 心理性・快適性		2.3	0.30		-	
1 広さ感・景観		1.0	0.33		-	
2 リフレッシュスペース	執務室面積の37.7%のﾘﾌﾚｯｼｭｽﾍﾟｰｽ（自販機あり）を計画	5.0	0.33		-	
3 内装計画		1.0	0.33		-	
1.3 維持管理		4.0	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	耐久性のあるコンクリート系床材、耐候性のある外装材など	4.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	屋上への丸環設置、高所作業車の導入、ﾄｲﾚへのSK設置など	4.0	0.50		-	
3 清掃管理業務		-	-		-	
2 耐用性・信頼性		3.6	0.30		-	3.6
2.1 耐震・免震		4.0	0.50		-	
1 耐震性	建築基準法を25%以上の耐震性	4.0	0.80		-	
2 免震・制振性能	制震構造（一部）の採用	4.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	

2.4 信頼性		3.8	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3 電気設備	サブ変の引込は2系統としている等	5.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	通信の引込は2系統としている等	5.0	0.20		-	
3 対応性・更新性		4.2	0.30		-	4.2
3.1 空間のゆとり		4.2	0.30		-	
1 階高のゆとり	サブエントランス棟4.1m、4.3m　7号棟5.0m、5.5m	5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり	サーバー室における十分な床荷重の設定	5.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性		3.6	0.40		-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性	更改スペースを設けている	5.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保	終局を想定した設備スペースを設けている	4.0	0.20		-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.40	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		1.0	0.30		-	1.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		1.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性		–	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		5.0	-		-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.13		-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI　非住宅 0.62　住宅（専有部） 0.83	4.0	0.63		-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)	一次消費エネルギーの低減	4.0	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)		-	-		-	
4 効率的運用		4.0	0.25		-	4.0
集合住宅以外の評価		4.0	1.00		-	
4.1 モニタリング	設備システムの性能評価を行う	5.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50		-	
集合住宅の評価		-	-		-	
4.1 モニタリング		5.0	-		-	
4.2 運用管理体制		3.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護		3.5	0.20		-	3.5
1.1 節水	節水コマ、節水型便器	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	工業用水の使用	4.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.8	0.60		-	2.8
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	―	3.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	―	1.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	乾式間仕切り、共用部と専用ルートを通る配線・配管等の計画など	5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20		-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70		-	
1 消火剤	不活性ガス消火	4.0	0.33		-	
2 発泡剤（断熱材等）	特定フロンを回避した断熱材	5.0	0.33		-	
3 冷媒		3.0	0.33		-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮	標準的な数値を目標としている	3.2	0.33		-	3.2
2 地域環境への配慮		2.3	0.33		-	2.3
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善		2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.3	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		-	-		-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.33		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮		2.5	0.33		-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40		-	
1 騒音		3.0	1.00		-	
2 振動		-	-		-	
3 悪臭		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40		-	
1 風害の抑制		1.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制		3.0	-			
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制		3.7	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝの一部を実施、かつ広告物照明をしていない	4.0	0.70		-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30		-	